

新潟削ろう会～鶴岡セミナーを振り返って

先日の鶴岡セミナーでスタッフをさせていただきました、会員の越智と申します。
まず、初めての大きなセミナー参加で、しかもスタッフとしての参加。馴れずに
不手際等あったことと思いますが、ご協力頂き、何とか大きな問題もなくこなせる
事が出来ました。ありがとうございました。

さて事務局 野木さんより、セミナー報告をしてもらえないかとの依頼がありました。
スタッフの仕事もあり、断片的記憶しかないなかで、参加されていない皆様にも、どの様
な会であったのか、それを直接的に伝えるために、私の耳に入ってきたことをそのまま
お伝えします。言葉が足りないところは写真でご想像ください。

1日目 斑鳩建築作業場にて

鉦で丸太から削る意義は、材の表と裏の使い分けから自分で把握できることだ」



自分で全て決められるようにするために、55歳で勤めていた工務店を退職し独立した」
年に一棟を作る」

気に入らなければ途中で壊してでもやり直す。壊すといっても廃棄するわけではなく
その材はまた別の工事で利用する」

構造はもちろん、家具調度に至るまで全て自分でやる」

私はここで、新発田市のレーモントの教会を見るために、別行動を取らせていただきました。構造がそのまま意匠になる、浄土寺浄土堂の洋物版とも言うべき空間。ディテールなどは日本人とはまた違った、割り切った感覚で木を扱っていて、面白かったです。ただし木工事は地元の宮大工さんが行ったとの事。案内していただいた神父さんによると、建立から約半世紀、その間大きな地震に3度遭遇したが無傷だとの事。うーむ。



二日目 三河町立東郷小学校にてのパネルディスカッション～その後の懇親会にかけて



Q 本物とはどういうものを言うのか？」

A 結局は、それにどれだけ心を込めたかだと思う」

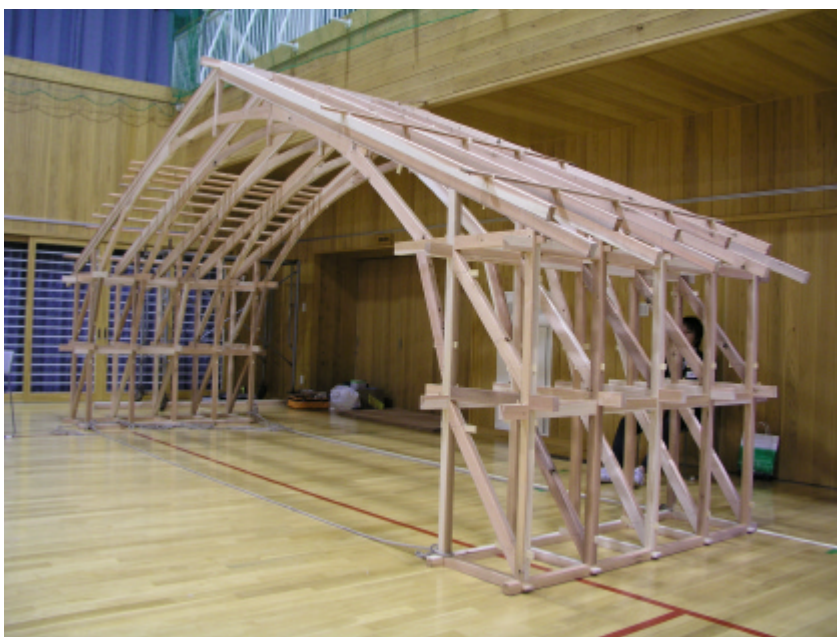
Q 「伝統工法は完成されたものですか？それともまだまだ改良の余地があるのですか？」

A 「何をもって伝統工法と言っているのか？」

Q 「古来から継承してきたものという意味です」

A 「千数百年に渡って引き継いできたものにはそれなりの理由がある。それをわざわざ変える必要は無い。変えるとしても それ以上の事をやるにはよほどの技量が必要」

落語家 (職人) は国会議員 (設計者) にもなれる。逆はなれない。



三日目 松ヶ岡開墾場～鶴岡市内文化財見学

松ヶ岡開墾場にての削ろう会



削ろう会前に槍鉋を研いでいる風景。会話を聞いていてよくわからない事もありました。



削った木肌の跡は、その時の削った人間の感情がそのまま表れる」
溶接ビードと同だと納得。

セミナーを開催しているちょうどその頃、その建物の屋根では茅葺屋根の補修を行っていました。初めて観た事もあってしばらく見入ってしまいました。



松ヶ岡開墾場内の建物。



なぜか愛らしい。

旧渋谷家住宅



致道館を見学。前々からどうしても観ておきたかった、旧渋谷家住宅に殆どの時間をさいて見学。ものを作るのに何の制約も無かった時代の建物。本当の意味で自由に発想出来た時代。うらやましい限りです。自由といっても奇を衒う事無く、目的と結果がイコールな関係。勉強になりました。

藩校致道館 聖廟



これも架構がそのまま意匠になっていて、期待せず入ったので感動。(上手く写真では伝わりませんが)

旧風間家住宅



明治時代の当地の豪商の館。石置き屋根と苔むす庭の静謐感が見事でした。